



株式会社三井住友銀行

使いやすい金利システムの拡張で 新しい債券システムを効果的に導入 NSSOL開発標準の適用で高いシステム品質を実現

■要件

債券システムで利用していた海外製のパッケージが長期にわたる改定等を経て複雑化し、機能追加時の検証負荷が増大していた。製品ベンダーに頼らず、保守体制を強化して対応してきたが、負担は大きかった。

■ソリューション

業務部門の満足度が高く使いやすい既存の金利システムを拡張し、債券系もカバーする仕組みに変える。金利システムが持つ高い管理レベルを債券系でも実現できる上、新規構築に比べて開発コストを抑えられる。

■成果

金利と債券の合算管理や、新商品対応の柔軟性など各種新機能を備え、債券のフロント/ミドル/バックをほぼ一貫して結ぶ債券システムを構築した。開発プロセスの標準化などで、高い品質を実現している。

パッケージの検証負荷増大で 債券システムの見直しを検討

「最高の信頼を得られ世界に通じる金融グループ」を目指して、中期経営計画「LEAD THE VALUE計画」を推進している三井住友フィナンシャルグループ。その中の三井住友銀行は三大メガバンクの一つであり、2008年3月期の総資産額は100兆円に及ぶ。

同行では、資金・為替・債券・デリバティブ等を取り扱う市場性取引ビジネスにも力を入れており、各金融商品の取引やリスク管理などで、各種情報システムを活用している。

この中で債券システムは抜本的な見直しを迫られていた。従来、同行で利用していた海外製のパッケージは長期にわたる改定等を経て複雑化し、機能追加時の検証負荷が増大していた。製品ベンダーに頼らず、保守体制を強化して対応してきたが、負担は大きかった。一方で、管理レベルの向上、金融新商品への対応等の必要性が高まっていたが、これにスピーディに対応することができ

ず、システムの利用継続が難しくなっていたという。

こうした課題を解決すべく、同行は複数のITベンダーから新しい債券システムの提案を募る。「スクラッチで新規に構築する」「使いやすい新パッケージを採用する」「別システムを拡張し更改する」など、3種類のソリューションを検討した。

その結果、三井住友銀行が選んだのが、新日鉄ソリューションズの別システム拡張案だ。同社は、従来よりOBSという金利・デリバティブシステムを同行に納入していた。当時としては先端的なオブジェクト指向を採用したシステムで、導入後も継続的に更改を重ねている。新日鉄ソリューションズの提案は、そのOBSを債券にまで拡張する内容だった。

選定の理由を統合リスク管理部システム企画室 上席推進役の右近聡氏は「OBSはレベルアップを重ね、高い管理レベルを実現し、業務部門からも支持を得ていました。また、債券と金利の取引は密接に関係していますが、OBSの拡張案は一つのプラッ

トフォームで債券・金利の両方を扱える仕組みとなり、一体化運営をさらに強化できるというメリットもありました」と振り返る。

統合リスク管理部 システム企画室 市場システム第二グループ 上席室長代理の吉沢達司氏は「新日鉄ソリューションズには、長年のOBSの開発・保守をお願いしてきました。時にはバック機能を追加するなど、導入後も大規模なプロジェクトがありました。そういった大きなプロジェクトをいっしょに乗り越えたことで高い信頼感を持っています」と述べる。

高いシステム品質の実現へ NSSOLの開発標準を初めて適用

決定を受けて、OBSの拡張による債券システム更改プロジェクトは2006年より本格スタートする。2008年3月期の同行の債券残高は12兆円を超える。また、ディーリング業務では市場変動に合わせ、きめ細かなポジション管理が必要となる。システムには非常に高い品質が求められた。



株式会社三井住友銀行
統合リスク管理部
システム企画室
上席推進役
右近 聡氏



株式会社三井住友銀行
統合リスク管理部
システム企画室
市場システム第二グループ
上席室長代理
吉沢 達司氏



株式会社日本総合研究所
第一開発部門
市場システム開発部
次長
坂上 省吾氏

新日鉄ソリューションズはその要求に応えるべく、同社案件では初めて開発プロセスに「NSSOLシステムライフサイクル標準（SLC標準）」を採用する。SLC標準はプロジェクトの各段階で作る成果物のあるべき姿をまとめた体系。いわば成功のカギとなるノウハウの集大成である。

設計に当たり三井住友銀行は、高い評価を得ていた管理機能などOBSの良い部分を債券の機能に拡張するよう指示。新日鉄ソリューションズは業務部門の意見を調整し、着実にシステムに反映していった。右近氏は「新日鉄ソリューションズは業務要件定義においても、業務の背景まで理解しようと努め、単に我々の改定要望を受け入れるだけでなく、システム全体の整合性を取るための具体策を逆提案してくれました。この積み重ねで、OBSの設計ポリシーと矛盾することなく、要件定義を行うことができました」と語る。

また、今回の更改は、OBSの通常追加開発と並行して行われた。担当者が両プロジェクトで重なることもあったが、大きな遅延を防いだ。

■コアテクノロジー
NSSOLシステムライフサイクル標準適用、Windows ターミナルサービスによる疑似3階層アーキテクチャ

■システム概要
●主要機能：債券約定管理、照会・リスク管理

プロジェクトの推進・管理に当たった日本総合研究所 第一開発部門 市場システム開発部 次長の坂上省吾氏は「既存業務向けの開発を長期間凍結できればプロジェクトの難易度が下がりますが、業務部門からの強い改定要望を止めるわけには行きません。両方の実現のために新日鉄ソリューションズには最大限の尽力をいただきました」と振り返る。

高い管理レベルと性能を実現 市場系を広くカバーする基盤に

新しい債券システムの開発は2008年に完了し、既に運用が本格的に始まっている。

システムへの評価は総じて高い。金利と債券について同等レベルの管理が可能となった。従来のシステムに比べ、日中の損益・リスク量の把

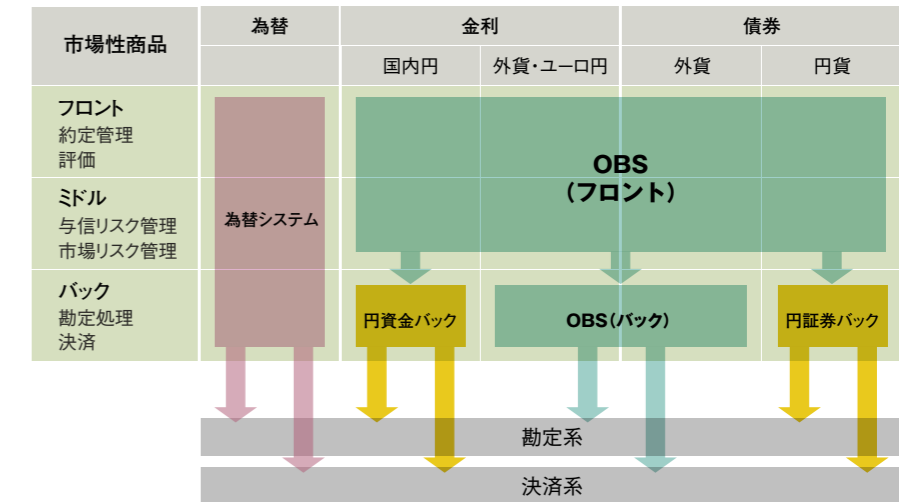
握も容易になった。

システムの性能について、右近氏は「基本設計にて工夫を重ねたことから、損益・ポジション計算のための時間も改善し、従来のシステム対比で3分の1から10分の1程度にまで、処理時間を短縮できました」と語る。

今後、三井住友銀行では、このシステムを海外支店へ展開すると共に、業務部門の要望に応じて、随時レベルアップを実施していく予定だ。

「今回の更改により、OBSは一層大型化しましたが、保守性を損なわずにこれを長期間使っていくためには、新しい技術の導入等による、システム面のレベルアップも欠かせません。そのための提案も含め、新日鉄ソリューションズには、引き続き我々のニーズに対応して頂くことを期待しています」と右近氏は語る。

■三井住友銀行が更改したOBSの市場系領域における位置づけ



※「OBS」は、三井住友銀行の行内システムの名称

■ 新日鉄ソリューションズの担当